



北側から見た発掘調査区の全景

南に平尾山、さらにその先に金峰山等が見える台地上に位置しています。

向原遺跡 (むかえばるいせき)

向原遺跡は熊本市北区植木町今藤にあり、九州自動車道植木インターチェンジから北へ約 1.2km の場所にあります。平成 21 年、新たな道路建設に先立ってこの地で発掘調査をしていたところ、9 世紀頃の大きな掘立柱建物跡 9 棟のほか、^{こんどう}金銅製の^{じょうまえ}錠前、^{かぎ}鍵、^{つぼ}金具（^{ひじ}壺金具・肘金具など）が、ひとかたまりとして埋められた状態で出土しました。（金銅とは、銅や青銅製品の表面に金めっきしたものです。）

金銅製の錠前、鍵などが、これほど完全な状態で遺跡から出土したのは全国で初めてのことでした。出土した鍵、錠前の金色に輝く表面には細かな文様が彫られており、非常に華麗な逸品です。大きさやその上品な様子から、大事なものを入れた箱（^{ひつ}櫃）にかけてのものと思われる。

向原遺跡のある場所は、平安時代には山本郡に属していたと考えられますが、『日本三代実録』という書物に、^{じょうがん}貞観元（859）年 5 月に合志郡を分けて山本郡を設立した、という記事があります。向原遺跡の時期はまさにこの前後の時期であることに加えて、立派な鍵、錠前などがあること、大きな建物が複数あること等から、山本郡の分立と関わる遺跡であるのかもしれませんが。

この地にどんな建物があって、どんな人たちが暮らしていたのでしょうか。皆さんも、当時の風景を想像してみてください。



出土した金銅製の錠前、鍵、壺金具と肘金具

これらが、ほぼひとかたまりとなって出土しました。

